

めでる



「春の宿泊研修・彦根城（彦根市）にて」

2 スポットライト 米原市の全世帯型地域包括ケアを目指して!!

米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」 センター長
地域包括ケアセンターいぶき センター長補佐

中村 泰之

4 特集 平成28年度 春の宿泊研修 in 彦根市、米原市

11 地域自慢 国宝・彦根城と伝えたい井伊直弼公の心

12 「人」 地域包括ケアセンターいぶき センター長 畑野 秀樹

14 病院紹介 社会福祉法人 びわこ学園

18 実習情報 医学生・看護学生のための「病院研修・実習・見学」

22 調査 2017年3月に卒業した医学生は 進路をどのように決めたのか

23 報告 開催報告／総会報告

26 紹介 滋賀医科大学男女共同参画推進室／ 滋賀県医師キャリア・サポートセンター

28 ご入会・ご寄附のご案内／ 編集後記

Contents

米原市の全世帯型 地域包括ケアを目指して!!

米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」 センター長
地域包括ケアセンターいびき センター長補佐

中村 泰之



はじめに、私は、20年以上地域の診療所等に勤務させていただきながら、10年近く地域包括ケアセンターいびきにて、老人保健施設長として務めさせていただく機会に恵まれました。現在は、米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」(写真1)にてセンター長として仕事をさせていただいております。これまでの経験の中で、どうしても成し遂げたくなることができました。それが、「介護保険制度が始まってから地域包括ケアの主たる対象が高齢者であり、昔の小児から高齢者までの全世代を対象にしたシステムから遠く感じる。全世代対象の地域包括ケアを少しでも実現したい。」でした。この実現を目指した施設「ふくしあ」を紹介させていただきたいと思います。



写真1 米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」

1. 地域包括医療福祉センター「ふくしあ」とは? (図1)

平成27年10月から米原市からの指定管理により米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」を開設いたしました。在宅24時間支援診療所、病児・病後児保育室、児童発達支援センター(児童発達支援、保育所等訪問支援、放課後等デイサービス、児童発達相談支援)、地域

包括支援センター、認知症初期集中支

援チームという多種多様な業務を含んだ施設として地域の方々の生活に少しでも役立てるよう努めています。以前よりあった近江診療所(在宅24時間支援診療所)については、在宅往診患者数が、のべ200件/月(写真2)にのぼり、加えて特別養護老人ホーム1施設・グループホーム2施設・サービス付き高齢者住宅1施設の嘱託医も受けております。



写真2 103歳の方への往診風景



図1 ふくしあとは?

出生数の減少に対し発達遅滞等が考えられる子どもの割合が増えている世の中に対応できる児童発達支援センターの充実やこの地域で初の病児保育の実現により、働く世代の支援の構築も目指しております。

また、地域包括支援センターと認知症初期集中支援チームを同時に抱えることにより、よりはやく地域の現状が見出され他事業所や住民組織等との協働ができるように努めています。現在、認知症等問題を抱えながら医療や介護サービスにつながっていなかった事例に対応できるようになってきています。(図2)

2. そして、 未来に向けた「つながり」を

米原市では、高齢者夫婦、一人暮らし高齢者、体が不自由な住民の困り事に対して、サービスを提供する「高齢者訪問支援事業」や空家を改修して食堂を作り、ランチの提供、野菜やお惣菜の販売、それに加え、宅配弁当の製造と配達を行う地域があります。他にも、米原市地域お茶の間創造事業という地域で高齢者が集まる場所がいくつもでき始め、地域の中でつながりの再構築が始まっています。また、ある法人では、小規模多機能施設、デイサービス、障がい者支援から始まり、次にグループホーム、訪問看護を実施され、今後は、特別養護老人ホームを考えておられます。これらは、住民生活を支えてこられた中で、地域の資源が不足しているため、必然的にこうした事業展開となり、地域の高齢者や障がいのある方を支えるための一助を果たしておられます。

そして、私たち地域包括医療福祉センター「ふくしあ」も図3のような各機関

や各団体等とつながりの一助（地域の学校や企業・商工会や警察等までの連携支援）として役割を果たしていこうと努力しております。そして、図4のように「なんらかの障害を持った方も、認知症を患った方も、小児も、成人も、高齢者も、みんなが同じ場所にいても自然な形でいられる地域をつくる」を推し進めていこうと思っています。

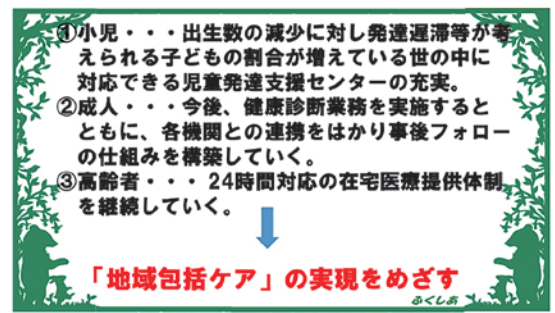


図2 ふくしあの概要

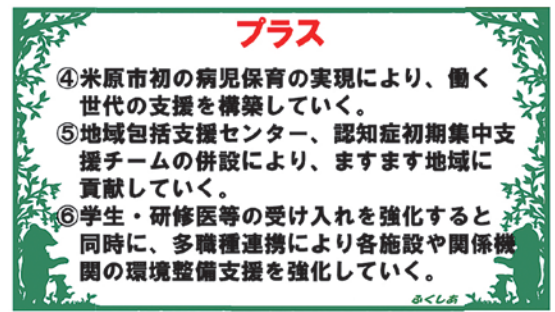


図3 多職種連携から他職種連携へ

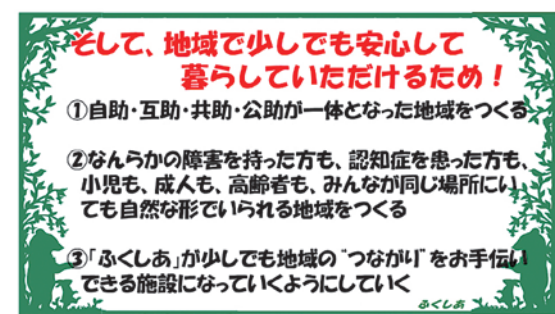


図4 目指す未来へ

彦根城を見学



彦根市の観光では、彦根城に行き、歴史的建造物があり、きれいな町なのだな、と感じました。歴史についてもたくさん知ることができて、楽しかったです。（参加学生感想より）

彦根市立病院を訪問



院内施設を見学後、彦根市立病院の在宅医療支援室のスタッフの方から、実際の活動について伺いました。また、院内施設内にある保健・医療複合施設「くすのきセンター」では、保健師の仕事について説明を聞きながら見学させていただきました。



施設見学では、清潔・不潔についてなど、習ったことがこんな風に臨床では大事になってくるんだな、と気づくことができました。（参加学生感想より）

友仁山崎病院を訪問



院長先生から病院の特徴や地域医療、また学生時代に身につけて欲しいことなどのお話をいただき、院内を見学させていただきました。



私が何より印象に残ったことはどの医療施設においても、職員の方一人一人が地域の医療を守るという使命感を持って仕事をされていたことです。（参加学生感想より）

平成28年度

春の宿泊研修
in彦根市、

平成29年3月23日(木)

交流会

第1部（講演）

『地域包括支援セン

認知症初期

米原市地域



『全世代型地域包括

米原市地域



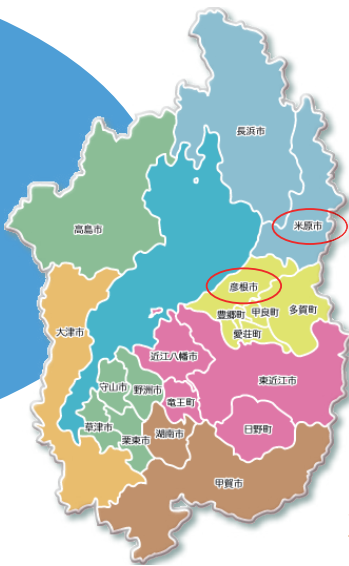
第2部（懇談会）

訪問先の関係者の方
方々にご参加いただき

米原地域の訪問では地域医療の重要性を再確認することができました。交流会第1部の講演会で中村先生がおっしゃっていた「つながり」というものを強く感じました。（参加学生感想より）

米原市

～ 24日(金)



龍潭寺を見学



佐和山の山麓にある井伊家ゆかりの龍潭寺を訪問しました。お寺には、きれいに整えられたいくつもの庭園があり、ご住職からお寺や庭園の由来について伺いました。

米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」を訪問



米原市地域包括ケアの取り組みについて説明いただき、在宅支援の拠点となる診療所と病児・病後時保育の「医療センター」と「病児発達支援センター」を併せもつ施設内を見学させていただきました。

子どもから高齢者まで、みんなが安心して暮らせるための医療と福祉の基盤となり、「地域全体が病院」となるように、医療従事者や職員のみなさんが熱意をもって地域を支えていることを肌で実感しました。
(参加学生感想より)

ターの役割と
集中支援チームの活動』
包括医療福祉センター「ふくしあ」
今井 友緒子認知症上級専門士
ケアへの挑戦』
包括医療福祉センター「ふくしあ」
中村 泰之センター長

々、地域の方々、里親・プチ里親の
意見交換や交流の場となりました。



第3部 (学生同士の交流会)



夜の交流会では滋賀医大卒業の初期研修医の先生にお話を伺うことができ、将来のことを考える上で大変参考になりました。
(参加学生感想より)

地域包括ケアセンターいぶきを訪問



センターの概要を伺い、通所リハビリや老人保健施設の様子を見学させていただきました。また、米原市の「地域お茶の間創造事業」として野一色地区のボランティアの手で開かれていらっしゃるサロンへ移動し、スタッフの皆さんやサロンを利用されている皆さんと交流をさせていただきました。

米原地区では大きな病院がないということで、住民同士が自分たちで健康を守っていこうという気持ちを非常に感じました。
(参加学生感想より)

今回も、地域の方々をはじめたくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。
ありがとうございました。

訪問先の皆様からのメッセージ

宿泊研修を受け入れて

医療法人友仁会 友仁山崎病院 院長 **高橋 雅士**



まだ肌寒い風が吹く2017年3月23日(木)に、9名の滋賀医科大学の学生さんの訪問がありました。当院5階のラウンジにご案内し、私と馬場事業統括管理者（滋賀医科大学前学長）から歓迎のご挨拶をさせていただき、その後、私より、スライドを使って、当院の沿革、湖東地域の医療の現実と課題、そして医学部学生に先輩としてお伝えしたいことなどをお話させていただきました。このあと、院内を案内させていただきました。また、夜には彦根市内のデュークホテルにて懇親会があり、和やかな雰囲気の中で、楽しい時間を過ごさせていただきました。その場には彦根市民病院で研修中の滋賀医科大学出身の若手医師たちの参加もありました。中には私が大学に在籍していた時に講義やポリクリでお付き合いさせていただいた懐かしい顔もありました。



▲友仁山崎病院にて

自分の学生時代を振り返ると、将来は先進的な医療の真っ只中に身を置くことだけを考えていたような気がします。今回の学生さんたちのように地域医療の“ち”の字も頭の中にはなかったように思います。その意味で、この学生さんたちの志の高さには心より敬意を表さざるを得ません。あるいは、超高齢化社会のうねりと、病院から地域・在宅へという大きな国策のトレンドを今の学生さんたちは敏感に感じ取っているのかもしれないとも

思いました。この若い学生さんたちが卒業後どのような道に進もうとも、彼らが相手にするのは機械や道具ではなく生身の人間であること、そしてその人間には多様性がありその多様性を受容できる医療人にならなければならないこと、を先輩としてお伝えしました。我々、地方の中小規模私立病院は、医局からの安定した医師供給は望むべくもなく、慢性の医師不足の中で喘いでいます。当然、医師臨床研修制度のレールの中心からはずれてはいますが、どうかこの湖東の地で地域住民



▲友仁山崎病院 見学の様子

訪問先の皆様からのメッセージ

のために奮闘している当院の存在を心の中に留めていただき、ご縁があれば将来一緒にお仕事ができますことを願っております。

最後になりましたが、この志の高い学生さんたちがひとりでも多く滋賀県に残っていただき地域医療を支えていただくようにお祈りいたしますとともに、このような機会を与えてくださいました滋賀医科大学里親学生支援室の先生方、事務の方々に厚く御礼申し上げます。

「宿泊研修」における交流会に参加して

米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」
認知症ケア上級専門士

今井 友緒子



「宿泊研修」における交流会は、普段介護の世界にいる私にとって医療の世界の方々とお話しをさせていただくことができる貴重な機会となりました。

交流会では地域包括支援センターの役割と認知症初期集中支援チームの活動について講演させていただきました。講演中、学生のみなさんの真剣なまなざしに圧倒され、現場で活動している者として、目の前の課題に更に真摯に取り組まなければいけないと反省することができました。

また医療の世界の方々とお話しをさせていただく中で、それぞれ医療や介護といった異なる世界での活動ではあるものの、目の前の「ご本人を知る」という根本的土台は共通しているのではないかと感じました。

最後にこのようなすばらしい会に参加させていただき、ありがとうございました。



▲米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」の前で

同行された先生のメッセージ

彦根市・米原市方面の 医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修に参加して

滋賀医科大学看護学科臨床看護学講座（老年）
助教

簗原文子



彦根市、米原市方面への里親研修に参加をさせていただくのは2度目になります。前回は、8月のとても暑い日に彦根城の散策をしましたが、今年は3月の梅がほころぶ穏やかな気候の中、城内や庭園の見学や彦根市立病院、友仁山崎病院の見学をさせていただきました。彦根城では築城410年祭が行われており、彦根の歴史について学ぶことができました。彦根市立病院では切手先生より実際に使用されている往診カバンを用いながらお話を伺いました。訪問診療の時に、実際に使用される道具を見ながらのお話はとても興味深く、在宅診療の担う役割について考える

ことができました。友仁山崎病院では地域医療についての話を伺い、関連施設である介護保健施設の見学もさせていただきました。学生にとって実際の現場で、実際に活躍されている医師や看護師、保健師の皆様から直に聞く熱のこもったお話は、今後の地域医療を学ぶ上での大きな糧になると思います。ご協力いただいた皆様に心より御礼を申し上げます。



宿泊研修に参加して(学生の声)

注) 学年は H29.3 時点のものです。



滋賀医科大学 医学科第1学年 本田 郁子

私は滋賀県の魅力と滋賀県の医療のことをもっと知りたいと思い今回初めて里親の宿泊研修に参加しました。

今回滋賀県の中でも医師の数が不足しているという彦根と米原の医療圏の病院を見学させていただいて、急性期病院がやっているような高度な治療も大切だけど、同じくらい地域でチームを作り患者さんを支えるような仕組みが大切であると思いました。

医療者と患者のつながりや医療者同士また患者同士など様々なつながりを作っていくことで患者さんが安心して幸せに暮らしていけると感じました。

滋賀医科大学 医学科第3学年 寺村 美咲

米原、彦根地域の医療や地域の現状をよく知っていたと思っていました。しかし研修を通じ、実は何も見えていなかったということを実感しました。少ない医療資源の中でも、地域をより良くしようという地域のみなさんの熱い気持ちや、医療機関や医療関係者間での連携に感銘を受けました。地域で働くということのイメージが覆されるとともに、さらに地域における医療のあり方を考えたいと感じました。今回はこのような研修に参加させて頂きありがとうございました。



宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 看護学科第1学年 村木 まひろ

今回の宿泊研修は、彦根市と米原市の医療体制を見聞きたことで、一段と地域医療の重要性を感じた研修になりました。

この研修において、私が何より印象に残ったことはどの医療施設においても、職員の方一人一人が地域の医療を守るという使命感を持って仕事をされていたことです。その中でも、地域包括センター「ふくしあ」の中村先生の自分の事よりも地域の人々のためという姿勢には感動しました。

また、米原市の野一色地区の地域を守る活動においては活動している全ての人々が熱意を持って行っておられる姿には感心しました。過疎化の進むどの地域も野一色をモデルにすれば孤独死などといったことは減るのではないかなと思いました。

今回も貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。次回もぜひ参加したいと思います。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 服部 友里亜

今回の宿泊研修に参加して、今まで知らなかった滋賀県の魅力をたくさん知ることができました。

彦根市の観光では、彦根城に行き、歴史的建造物があり、きれいな町なのだな、と感じました。歴史についてもたくさん知ることができて、楽しかったです。龍潭寺でも、美しい庭園を見させていただくことができました。

施設見学では、清潔・不潔についてなど、習ったことがこんな風に臨床では大事になってくるんだな、と気づくことができました。また、施設の見学をさせていただいて、地域のつながりを実感することもできました。田舎のほうであっても最近はあまり地域のつながりが無いと聞きましたが、米原市では地域のつながりを強くしようとしているということを知りました。これから日本は、超高齢化社会に突入するので、地域の人々がそれぞれ働きかけて、支え合うことが大切なのだな、と思いました。他の地域や他の県も手本にしていくべきだと思います。

今回の研修でもとても良い経験ができました。滋賀県の魅力や滋賀の人々の温かさを実感することができました。今回の宿泊研修は2回目の参加でしたが、これからも積極的に参加していきたいな、と思っています。お世話になった皆さま、ありがとうございました。

滋賀医科大学 看護学科第3学年 浅沼 莉衣

私が宿泊研修に参加させて頂くのは、今回で2回目となります。前回は自分の住む地元へ研修に行きましたが、今回は彦根地区ということで前回とは違った視点で参加することができました。米原地区では大きな病院がないということで、住民同士が自分たちで健康を守っていくという気持ちを非常に感じました。印象に残っている言葉として、「治す医療から支える医療へ」という言葉があります。今後はますます高齢化が進み、医療の役割が変化します。今回の研修では、そんな日本の将来的な医療を学ぶことができました。

このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。





宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 看護学科第1学年 丸山 晃帆

昨年の夏の里親研修に続き、2回目の里親研修参加でした。今回の研修で一番印象に残っているのが、米原市の地域包括医療福祉センター「ふくしあ」です。こどもから大人、高齢者までの医療と福祉をひとつの施設で総合的に行っているということにとっても驚きました。米原市には病院がないということも、今回の研修で初めて知りましたが、病院がない地域だからこそ、地域に密着し、すべての世代を総合的に支援する医療福祉の形が発達したのだなと感じました。

里親研修に参加して、滋賀県内でもそれぞれの地域により医療の形態がそれぞれ異なっているということがわかり始めてきました。また、次の研修にも参加したいです。



滋賀医科大学 医学科第3学年 川崎 翠

私は今回の宿泊研修を通して「地域包括ケア」を具体的にイメージできるようになりました。

特に印象的だったのは病院が少ない米原市における地域包括医療センター「ふくしあ」でした。科の区切りのない診療所に加え、24時間対応の在宅医療提供体制、認知症の初期集中支援チーム、児童発達支援センターや病児保育室など、地域のニーズに応じることができ、根付いていました。子どもから高齢者まで、みんなが安心して暮らせるための医療と福祉の基盤となり、「地域全体が病院」となるように、医療従事者や職員のみなさんが熱意をもって地域を支えていることを肌で実感しました。

在宅医療や家庭医療に興味をもち、また自分の将来を考える貴重な機会にもなりました。2日間ありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科第4学年 牧野 愛

縁側に腰掛けて庭を眺める。もしこの龍潭寺を住まいとするならば腰掛けただろうに、観光目的であがりこんだ私は庭を立て見ることはできなかった。視線を下げると、池に浮かぶ島は亀に見え、白い筋が縦に走る石組みは水が流れずとも滝に変わった。しかし池の縁にいるはずの鶴は、煩惱が未だ去らない私の目には茂みとしか捉えることができなかった。この4年間、医療、観光、地域、と多くの側面から滋賀を学ぶことができた。同じものを見ても、人それぞれの見方があり、同じ人でも時と場所により見方が違ってくるのを忘れないでおきたい。

滋賀医科大学 医学科第4学年 北川 奈津子

宿泊研修で彦根、米原地域を訪れたのは今回が2回目でした。1回目は1年生の夏の時で病院見学では見た目の良さやその病院の特色を聞きどっちかといえどその病院を利用する側の立場で見学させてもらっているような感じでした。4年生になって研修病院や将来の働き方を考えてる中で同じ病院を見学させてもらい、ここで研修する、働くとうなるのかと、医学生という立場で見学できた気がします。また、夜の交流会では滋賀医大卒業の初期研修医の先生にお話を伺うことができ、将来のことを考える上で大変参考になりました。

米原地域の訪問では地域医療の重要性を再確認することができました。特に今回、交流会第1部の講演会で中村先生がおっしゃっていた「つながり」というものを強く感じました。医療者と患者のつながりはもちろん、医療者同士のつながり、地域住民同士のつながりばど、どれ一つ欠けても地域医療は成り立たないのだということを考えることができました。もちろん、つながりが大切なのは地域医療だけに限ったことではないと思います。私も今あるつながり、これからできるつながりを大切にしたいと思います。



～ 国宝・彦根城と伝えたい井伊直弼公の心～



国宝彦根城

豊かな自然に囲まれた彦根の四季の彩りは、素晴らしい魅力にあふれています。

茶の湯の心得“一期一会”を広めた直弼公が、一日4時間の睡眠で文武両道を極めていった埋木舎。二度とない今を大切にという心は、今を生きる私達にも人生の教えとして共感します。“あふみの海 磯うつ浪の いく度か 御世にこころを くだきぬるかな”の歌をよまれた2ヵ月後の安政7年（1860年3月24日）3月3日に、桜田門外で凶刃に倒れた直弼公。いろんな苦難があっても一生懸命に心を砕いて頑張ってきたから悔いはないという心。これこそ直弼公の心を現わしたお歌である。

この志を学んで受け継ぐことこそ、使命のように思えてしかたがありません。

多彩なイベント。小江戸彦根の城まつりパレード、彦根花火大会、彦根ばやし総おどり大会などいっぱいです。全国的にも有名なゆるキャラまつりin彦根は、ゆるキャラの聖地となっています。トリガールの映画にもなった鳥人間コンテストはテレビ放映され、全国の鳥人たちが彦根に集まり、琵琶湖の大空へと飛び立って、興奮といういろんなドラマがうずまきます。

この秋で8年目に入る彦根市の地域医療を守る会はオンリーワンの日本一の会と言われています。地域医療をみんなで守り支える勉強会やフォーラム、あったかハート写真展。会のキャラクターのお菓子を販売など地方創生を視野に入れたまち作りを楽しんでいます。直弼公の心を受け継ぎ、“彦根を愛してる” そんな熱い心を持ち続けたいです。

文：彦根市の地域医療を守る会 代表 川村 啓子



彦根ばやし総おどり大会



彦根市の地域医療を守る会 フォーラムの様子



会のキャラクターを使ったお菓子
たいちゃんかいちゃんサンドとクッキー



井伊直弼が青春時代を過ごした埋木舎



井伊大老歌碑

ええる勉強会やフォーラム、あったかハート写真展。会のキャラクターのお菓子を販売など地方創生を視野に入れたまち作りを楽しんでいます。直弼公の心を受け継ぎ、“彦根を愛してる” そんな熱い心を持ち続けたいです。

Interview

地域包括ケアセンターいぶき

センター長 畑野 秀樹



「死に病（しにやまい）やな……」

平成元年に医師免許を取ってから早28年。いろいろな経験をしてきました。「良医」になれているのか、日々疑問の毎日は変わりません。30歳代の診療所勤務時代のいろいろな出来事は、「ドクターHの事件簿」をネット上に書いてアップしています（「ケアセンターいぶき」→「ドクターHの事件簿」で読んでいただけます）。その中の一部を掲載します。興味のある方は事件簿の方もご覧ください。

もう随分前になります。「先生、えらい（しんどい）から往診してくれ」と頼まれたのは。

往診して、ひどい貧血に気がつきました。

私：「〇〇さん、どこから出血してへんか？ 貧血があるわ」

〇〇さんは、しばらくどうもないという顔をしていましたが、何度も確かめる私に、恥ずかしそうにズボンを下げました。

見せてくれたのは、鼠径部の黒い皮膚腫瘍でした。

そこから出血がじわじわとしていました。

こ、これは……

「病院へ行って診てもらわんとあかんで」と、受診を促す。

〇〇さんは嫌がっていましたが、家族に説明して病院へ受診、そのまま入院となりました。出血していた腫瘍は手術で取ってもらいましたが、病院の主治医からは「悪性黒色腫。もって3ヶ月。治療法はない」と言われたそうです。

その後は、自宅に帰り、月に1度診療所に来てくれました。

私：「今日はどうやって来られましたか？ 歩いてですか？」

後から家族の人からの話しでは、私がいつもこの質問をしていたとのことでした。

私はいつも貧血や他臓器への転移を心配していました。

しかし、〇〇さんは、「歩いてきました。畑をしているんや」と穏やかな声でおっしゃいました。

伊吹野・伊吹山 2017.5.20



▲フデリンドウ（筆竜胆）



▲伊吹山山頂近く、ニリンソウ



▲ピンクのタニウツギ（谷空木）

5年生存率は10～20%のはず。病院の医師からも3ヶ月の命と言われながら、何年たっても同じように診療所に診察に来る姿に、「この病気は完治するんかいな」と驚きました。

9年後、「気になるからカミソリで切ったら大きくなってきた」と言って受診されました。明らかに原発巣の増悪でした。見る見る間に大きくなる腫瘍を見ながら、再度病院受診を勧めました。しかし病院では、「なんでこんなになるまで放っておいたんだ」と怒られる始末。〇〇さんは、「もう病院にはいかん」とご立腹でした。

しかし、この選択は正解だったかもしれません。強力な抗癌剤治療をすることなく、その後も自宅で畑仕事や炊事をしながら過ごしていました。半年すると歩けなくなり、寝たきりに近くなりました。腫瘍はあちこちに転移し、大きい皮膚腫瘍は10cm近くになりました。

伊吹山山頂 2017.7.8



▲イブキトラノオ（伊吹虎の尾）



▲キンバイソウ（金梅草）



▲クサタチバナ（草橘）



▲シモツケ（シモツケ）

私が「痛くないですか？」と聞いても、「痛いことはない。もう死に病や。先生、絶対に病院には行きとない。最期まで診てえな」と言う〇〇さん。

家族も、「寝ている間にすーと死ねるとええなあ」と。

明らかに死を受け入れて生活しておられる〇〇さん家族。あわてることもなく、生に対する強い執着もなく、淡々と過ごしておられる姿は、研修に来られたドクターや学生さんにとっても新鮮だったようです。

癌細胞自体も、最初のうちはどんどん大きくなってきましたが、患者さんの体力が落ちるとともに、活動を停止し始めました。腫瘍自ら壊れていきました。出血を止めるのが大変でしたが、だんだん出血もしなくなりました。癌細胞自体が、「この人間が死んだら我々も死に絶える。できるだけ生き延びたい」という意志を持っているかのようでした。

最期の数日は、少し辛い様子でしたが、最期まで家族の声は通じていましたし、私の往診の時もうなすいたりしてくれました。近所の人も気にして毎日訪問しておられたようです。すーと息を引き取られました。

亡くなった報告を受けて深夜に看取りに行きましたが、既に近所の方々が集まっておられました。その後も真夜中だというのに次々に近所の人が集まってこられ、本当にいい最期を迎えることができたのだな、と思いながら帰途につきました。

社会福祉法人 びわこ学園

病院の概要

開設者：社会福祉法人 びわこ学園 理事長 山崎 正 策

病 院：びわこ学園医療福祉センター草津

122床（内短期入所・有目的入院14床）

びわこ学園医療福祉センター野洲

143床（内短期入所・有目的入院12床）

診療科目：内科、小児科、精神科、歯科、整形外科、眼科、皮膚科、リハビリ科

障害児者支援事業：知的障害児者地域生活支援センター

（相談支援、居宅介護支援、生活介護事業、自立訓練事業）

びわこ学園障害者支援センター

（通所事業、訪問看護、訪問介護、グループホーム事業、相談事業）



社会福祉法人びわこ学園は、障害児者の医療と生活を支援する機関です。医療法に基づく病院であり、また児童福祉法と障害者総合支援法に基づく福祉施設でもあり、両制度のもとで運営されています。

滋賀県における障害児者の医療と福祉の支援事業を数々展開してきていますが、昭和38年（1963年）にびわこ学園が開設され、その創始者である糸賀一雄先生の提唱された「この子らを世の光に」という理念の下で、運営を続けてきました。

現在障害児者専門の医療生活支援機関として、2か所の病院を運営しています。

病院として、びわこ学園医療福祉センター草津・野洲があり、それぞれ122床、143床のベットを持ち、特に重症心身障害という重い障害を持っておられる方々の長期入院（入所）や短期入所、さらに各々の外来診療では、障害を持っておられる方々の小児科・内科の治療、てんかんの治療、リハビリテーション、嚥下障害の検査と対応、自閉症を含めた発達障害児者の医療生活相談、強度行動障害児者の治療等を実施しています。

病院の医療スタッフは、内科・小児科・精神科・整形外科・眼科・皮膚科・歯科等の先生方で、それぞれ患者さんを受け持っていていただいています。最近では、呼吸機能や嚥下機能の低下により絶えず医療的管理が必要な「超重症児」といわれる人たちが増え、長期入所もその方達で占められるようになりつつあります。そんな中、長期入所者の生活もしっかりと支援していくことを意識している所です。

この二つの医療機関を取り囲むようにしながら、種々の福祉事業所を運営しています。知的障害児者地域支援センター（大津市）やびわこ学園障害者支援センターでは、通所事業、訪問事業、相談事業を受け持ち、また障害者のグループホームを2か所運営しています。

このように障害のある人の様々な支援を実施することで、それぞれの持つ様々な課題が提起され、それを医療も含めたチームとして、協議解決していくことに仕事の醍醐味があるのではないかと考えています。



びわこ学園医療福祉センター草津



びわこ学園医療福祉センター草津

センター草津で、目指していることは、どんなに障害が重くても、一人ひとりの持っている力を引き出し、充実感や生きる喜びを感じる人生を、医療を通じて実現していくことです。

入所・入院医療

主に重症心身障害の方の医療の支えのある長期入所入院、地域セーフティネットとしてのショートステイ、3ヶ月までの有目的入院・入所、一般入院など、多様な入院入所サービスを用意して、利用者の地域生活を支えています。

ます。対象は乳幼児から大人までで、人工呼吸器ケアなど呼吸、循環の管理、摂食嚥下、消化吸收の管理、排泄、筋緊張、てんかん治療などを通じて苦痛を軽減し快の状態を作り出すことで、充実した生活を目指します。治す医療というより、生活を支える医療です。栄養サポートチーム、呼吸サポートチーム、姿勢保持チーム、感染防止チームなど多職種でチームをつくって専門性を発揮しながら支援しています。

外来診療

脳性麻痺のリハビリでは、日本で初めて重力を免荷するspiderという方法を取り入れ、麻痺のある方も無理なく楽しく身体を動かしていけるリハビリを開始しました。また、滋賀県立大学工学部とタイアップし、電動スイッチによる移動支援装置を開発し、障害があっても自ら操作して、意欲や能動性が高まることを目指したリハビリを実施しています。また、知的障害や発達障害に対しては、リハビリや心理スタッフと連携し、ソーシャルスキルトレーニング、ペアレントトレーニング、感覚訓練や学校でのスキル獲得の作業療法などを実施しています。障害のある方の歯科外来も開設しています。

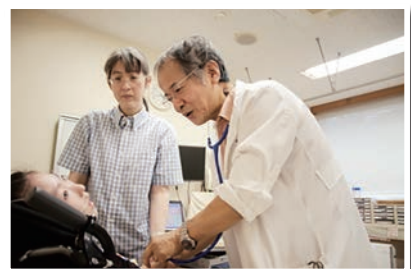


口分田政夫施設長

地域支援

療育教室、通所施設での医療相談、訪問歯科、訪問リハビリも実施しています。滋賀県から小児在宅医療体制整備事業の委託を受け、県内の小児在宅医療のネットワークづくりや研修も最近始めました。小児科主体の医療陣ですが、障害医療は専門科を統合した総合障害内科としての力が必要で、どの専門家からもアプローチできます。臨床研究も活発に行い、当施設からの臨床研究で2名が学位を授与されています。当センターの女性医師は、「このセンターでは、病棟では全身管理などの高度医療、外来では障害児のこころのケアなど、心身両面への幅の広い医療が実施でき、また対象年齢も乳児期の発達医療から高齢者の看取りまでも経験できて、とても魅力的でやりがいがある職場と感じます。また、育児中の女性にも働きやすい職場です。」と語ってくれています。

滋賀医大学生の早期体験学習や小児科専門医研修プログラムなどに参加し、若い医師育成にも協力させていただきたいと思っています。(写真撮影 國森康弘氏)



びわこ学園医療福祉センター野洲



びわこ学園医療福祉センター野洲

診療と支援活動

びわこ学園医療福祉センター野洲は143床のベッドを有し、重症心身障害を持った方々の長期および短期入所入院診療に加え、多職種のスタッフとチームを組み合わせながら、障害のある方々とその家族への医療・生活支援を行っています。びわこ学園は西日本で最初に開設された重症障児施設です。そのため国内の他施設に先駆けて重症心身障害医療の問題点にいち早く直面することも多く、その一つとして重症児者の高齢化と重症化が挙げられます。

昨年度においてセンター野洲の長期入所者の内、超重症児者は17名、準超重症児者は15名で、50歳以上の入

所者は48.1%、入所者の平均年齢は49.6歳でした。高齢化に伴い、悪性腫瘍で死亡される入所利用者の方の割合も徐々に高まっています。これらの状況を踏まえ、現在びわこ学園では、障害を有する方の尊厳を最大限に尊重した終末期医療のあり方について、保護者の方々と病棟スタッフ一丸となって取り組んでいます。

医師スタッフ

常勤医師7名（小児科医5名、内科医2名）を中心に、整形外科、精神科、眼科、歯科の非常勤医師の協力のもとに重症児者への総合的な診療を実施しています。常勤医師は重症心身障害医療全般について熟練しているのみならず、それぞれに精神医学、内分泌学、感染症学、神経科学などの専門性を有した専門医です。入所者の重症化と高齢化にともなって外科手術やICU対応など高い緊急性が要求される事例も多く、このため近隣の中核的な医療機関のみならず開業の先生方とも密接な連携をとりながら、地域全体で包括的な医療を展開しています。



高野知行施設長

重症心身障害・福祉医療を志す皆さんへ

重症心身障害・福祉医療は、長期入所での診療に加え、短期入所、日中一時支援、生活介護、訪問看護、相談事業などを含めた幅広い領域におよびます。それ故、医師相互の連携のみならず、福祉医療のスタッフとの密接なチームワークが要求される診療分野です。一方、医療スタッフにも高い専門性が要求され、当センターでは日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医、および日本てんかん学会専門医取得のための研修が可能です。障害のある方々は光り輝く存在です。皆さん、是非私達とともにびわこ学園医療福祉センター野洲で、重症心身障害医療を志してみませんか。



びわこ学園医療福祉センター野洲全景



びわこ学園看護部

**重症心身障害児者の方の医療と生活を支えるホリスティック(全人的)な看護を実践。
いのちの尊さが輝くピュアな看護現場です。**

障がいの重い人達の生活の創出と幸福を追求したびわこ学園の創設者、糸賀一雄は「この子らを世の光に」と提唱しました。私達は、障がいの重い人達であっても、他とおきかえることができない“いのち”とその人らしさが輝く“生活”そして一人ひとりが主人公となる人生の物語を支える療育を目指します。

重症心身障害児者看護は、高い専門性・個性性・倫理性と「癒しの看護」を大切に考えます。毎日の看護ケアの中には“癒し”のエッセンスが不可欠なびわこ学園の看護ですが、利用者だけでなく私たちスタッフ自身も癒される現場がびわこ学園にはあります。是非一度見学会・インターンシップにご参加ください。



看護師新人研修にて



私達、部長・課長が中心となり
新人看護師を皆で支えています

訪問看護ステーションメッセージ

**訪問看護ステーション ちょこれーと。では、
地域支援として小児・障害児者の方々の在宅生活をサポートしています。**

子どもたちやご家族様から様々なことを教わりながら、自分たちも成長していけるように頑張っています。
みんなで考え、話し合い、一人の力ではどうにもならないことを分かち合い、自分の力に変えていきます。
ステーション企画のお楽しみ会の実施やボランティア活動などで、子どもたちの社会参加のお手伝いをしています。



訪問看護ちょこれーと。ぷりん。

医学生・看護学生のみなさんへ

滋賀県内の病院から寄せられた実習情報・病院見学・インターンシップなどの開催情報です。ぜひご活用ください。

ホームページ<http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/gakusei/index.htm>でも最新情報をご確認いただけます。

◆ 医学生のための「病院研修・実習・見学」

病院名・機関名					
対象者 学年等	実施内容	日 程 開催期間	申込時期	連絡先	
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院 http://www.keiaikai.or.jp/					
全学年	病院見学	随時	随時	事務部長 長谷出 浩 0748-22-2222	
一般社団法人 水口病院 http://www.minakuchi-hp.or.jp					
全学年	病院及び関連施設見学（希望の見学場所があれば対応します。）	応相談・随時	随時受付 随時実施	事務長 崎山 明生	
米原市地域包括医療福祉センター 近江診療所 http://fukushia.jadecom.or.jp					
全学年	外来見学、往診同行等	随時（1日～1週間程度）	随時	事務局 服部 0749-54-2127 koujihax@jadecom.jp	
医療法人社団 日野記念病院 http://www.hino-hp.jp/					
5回生～6回生	病院見学	随時（平日）	随時	総務課 0748-53-1643（総務課直通）	
医療法人社団 弓削メディカルクリニック 滋賀家庭医療学センター http://yugemed.com/					
全学年	・外来 ・在宅医療 ・通所リハビリテーション他	随時（平日）	随時	総務部 岡 yugemed@gmail.com	
大津ファミリークリニック http://www.otsu-fc.jp					
全学年	外来・訪問診療の見学など	随時	随時	事務長 中場 jimucho@otsu-fc.jp	
彦根市立病院 http://www.municipal-hp.hikone.shiga.jp/					
全学年	診療科見学、施設見学等	随時（平日）	随時	職員課 0749-22-6050	
医療法人華頂会 琵琶湖養育院病院 http://www.kachokai.or.jp					
全学年	病院見学	随時	随時	事務部事務次長 池見・山本 077-545-9191	
医療法人良善会 ひかり病院 http://hikaribyoin.com/					
全学年	病院見学、訪問診療実習体験も可	随時	随時	事務局人事課 077-522-5411	
滋賀県立成人病センター http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seijin/					
全学年	病院見学	随時	随時	総務課 077-582-8033（直通） nb01105@pref.shiga.lg.jp	
医療法人友仁会 友仁山崎病院 http://www.yujin-yamazaki.co.jp/					
全学年	病院見学	随時（月～金）	随時	総務課 0749-21-1380 info@yujin-yamazaki.co.jp	
滋賀県立精神医療センター http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seishin/					
6年	1回につき学生1人。精神科医の診療に3日間ずっとついてもらいます。その間に協議も。	随時、相談 3日間連続を年3回程度（計3人）	随時	診療局長 柴崎 077-567-5001 shibasaki-morikazu@pref.shiga.lg.jp	
浅井東診療所 http://www.hcfm.jp/access_soro/siga.html					
1～6年	外来・訪問の実習を中心に、家庭医の様々な仕事や学び方を体験	半日～長期も可です	随時可（ベストは2～3ヶ月前より）	0749-76-8111	
社会医療法人誠光会 草津総合病院 http://kusatsu-gh.or.jp/ghk/					
全学年	病院見学、各診療科見学	随時（応相談）	随時	臨床研修管理委員会事務局 077-563-8866(代) minai@kusatsu-gh.or.jp	
独立行政法人国立病院機構 紫香楽病院 http://nho-shigaraki.jp/					
全学年	病院見学	随時	平日9時から 17時まで	庶務係長 中野 0748-83-0101 y-nakano@subsigaraki1.hosp.go.jp	
長浜赤十字病院 https://www.nagahama.jrc.or.jp/					
全学年	①病院見学②病院見学会※いずれも詳細はホームページにて	①随時（1日～1週間程度） ②3月頃	随時	経営企画課 0749-63-2111 resident@nagahama.jrc.or.jp	
独立行政法人 国立病院機構 東近江総合医療センター http://www.shiga-hosp.jp					
全学年	病院見学	随時（平日）	随時	庶務班長、庶務係長 0748-22-3030 402sv01@hosp.go.jp	

病院名・機関名					
対象者 学年等	実施内容	日 程 開催期間	申込時期	連絡先	
東近江市湖東診療所 http://www.city.higashiomi.shiga.jp					
全学年	外来見学、訪問診療への同行	随時	随時	所長 杉山 祐介 0749-45-0001	
甲賀市立信楽中央病院 http://www.city.koka.lg.jp/sch/					
全学年	診療見学・出張診療・訪問診療	随時（6月～11月）	随時	中島 恭二 0748-82-0249	
医療法人 幸生会 琵琶湖中央病院 http://www.biwako-chuo-byoin.jp/					
全学年	病院見学	随時（月～金）	随時	総務課 077-526-2131(代) webmaster@kou-sei-kai.or.jp	
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 http://www.vories.or.jp/					
全学年	病院見学	随時	随時	事務長 澤谷 久枝 0748-32-5211	
医療法人明和会 琵琶湖病院 www.biwako.or.jp					
全学年	病院見学	随時（応相談）	随時	事務部長 村上 直 www.biwako.or.jp	
地方独立行政法人 市立大津市民病院 https://och.or.jp/					
4・5回生	研修医のエスコートのもとに病院 研修を体験してもらう	平成29年8月1日～8月25日(予定) 研修日数は1～5日とし、複数の週にまたがらないこと(詳細は 当院ホームページをご覧ください)	ホームページ 参照のこと	病院総務課 臨床研修担当 077-526-8516（直通）	
近江八幡市立総合医療センター					
第4学年～ 第6学年	病院見学（各診療科見学等）	随時 応相談 メールにて 見学を希望する日程・診療科 をお問い合わせ下さい	随時	医局秘書 長谷川 0748-33-3151(代) ocmc-ikyoku@kenkou1.com	
市立長浜病院 http://www.nagahama-hp.jp/					
全学年	病院見学・各診療見学、救急外 来見学、手術見学、院内案内等	応相談(半日～1週間程度)	随時受付・ 随時実施	総務課 0749-68-2324（総務課直通）	
滋賀県立小児保健医療センター http://www.pref.shiga.lg.jp/mccs/					
第5・6学年	外来診療、処置、手術等の見学	随時 応相談	随時	事務局 077-582-6200(代) div-manage@mccs.med.shiga-pref.jp	
守山市市民病院 http://www.moriyama-hp.jp/					
全学年	病院見学	随時	随時	総務課 077-582-5151(代)	
医療法人藤樹会 滋賀里病院 http://www.shigasato.or.jp/					
全て	病棟、他関連箇所	希望に依ず	随時	077-522-5426	
医療法人恭昭会 彦根中央病院 http://www.hikone.or.jp/					
全学年	病院見学	随時	随時	事務長 奥 晃 0749-23-1211	
長浜市立湖北病院 http://www.ikbk.jp/					
全学年	病院見学(各診療科見学、院内案内、 へき地巡回診療所見学等)	随時（4月～11月）	随時	管理課 0749-82-6143（直通）	
びわこ学園医療福祉センター野洲 http://www.biwakogakuen.or.jp/					
全学年	障害児者医療の実習・見学 （病棟・外来・地域支援など）	随時（1日～応相談）	随時	施設長 伊藤 正寛 077-587-1144	
独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院 http://shiga.jcho.go.jp/					
全学年	病院見学、各診療科見学	随時（応相談）	随時	総務企画課 077-537-3101(代) main@shiga.jcho.go.jp	
医療生協 こうせい駅前診療所 http://www.shiga-mcoop.jp/kousei/					
全学年	外来見学、在宅医療（往診、訪問看護への同行など）等	随時（応相談）	随時	事務局 0748-71-3222(代) kousei@shigamin.jp	
医療生協 こびらい生協診療所 http://www.shiga-mcoop.jp/kobirai/					
全学年	外来見学、在宅医療（往診、訪問看護への同行など）等	随時（応相談）	随時	事務担当 福塚 077-553-9696(代) kobirai@shigamin.jp	
医療法人滋賀勤労者保健会 膳所診療所					
全学年	外来診療見学、在宅医療と介護の連携	随時（平日）	随時	事務担当 植木 077-524-8114(代) zeze@shigamin.jp	
医療法人滋賀勤労者保健会 坂本民主診療所					
全学年	外来見学、在宅医療（往診・訪問看護・ケアマネ、ヘルパー同行など）、各種検査見学 など	随時（応相談）	随時	事務担当 小西 077-579-7121(代) sakamoto@shigamin.jp	
医療法人社団仁生会 甲南病院 http://www.kohnan-shiga.or.jp/					
全学年	病院見学	随時	随時	人事課 0748-86-5534 personnel@kohnan-shiga.or.jp	
済生会滋賀県病院 http://www.saiseikai-shiga.jp/					
5回生～6回生	希望科の外来診療、処置、手術等、ご要望をお伺いして調整いたします。また、当直や研修医のモーニングカンファレンスもご希望があれば見学いただけます。	見学につきましては、随時受け付けております。	見学希望日の概ね2週間前	総務課 臨床研修担当 小林 077-552-1221 soumu@saiseikai-shiga.jp	
公立甲賀病院 http://www.kohka-hp.or.jp/					
全学年	病院見学（各診療科見学）	随時（土・日・祝を除く）	随時	人事課 譽田 0748-62-0234 honda.m@kohka-hp.or.jp	

◆ 看護学生のための「病院研修・実習・見学」

病院名・機関名					
対象者 学年等	実施内容	日 程 開催期間	申込時期	連絡先	
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院 http://www.keiaikai.or.jp/					
全学年	病院見学	随時	随時	事務部長 長谷出 浩 0748-22-2222	
一般社団法人 水口病院 http://www.minakuchi-hp.or.jp/					
全学年	病院及び関連施設見学（希望の見学場所があれば対応します。）	応相談・随時	随時受付 随時実施	部長 與那城 隆幸 0748-62-1212(代)	
医療法人恒仁会 近江温泉病院 http://www.oumi-hp.or.jp					
全学年	病院見学、看護部紹介、卒後教育体制、先輩看護師対談など	随時（応相談）	随時	人事学生本部 0749-46-1125	
米原市地域包括医療福祉センター 近江診療所 http://fukushia.jadecom.or.jp					
全学年	外来見学、 往診同行等	随時（1日～1週間程度）	随時	事務部 服部 0749-54-2127 koujihax@jadecom.jp	
東近江市あいとう診療所 http://www.city.higashiomi.shiga.jp/0000000024.html					
滋賀医科大学学生	診療所での業務全般	いつでも可	いつでも可	0749-46-8030	
医療法人社団昂会 日野記念病院 http://www.hino-hp.jp/					
全学年	病院見学・看護部紹介	随時	随時	看護部 0748-53-1201(代)	
訪問看護ステーション ゆげ http://yugemed.com/					
全学年	訪問看護・他在宅療養を支える様々なサービスについて	随時（平日の2～3日間）	随時	総務部 岡 yugemed@gmail.com	
大津ファミリークリニック http://www.otsu-fc.jp					
全学年	外来・訪問診療の見学など	随時	随時	事務長 中場 jimucho@otsu-fc.jp	
彦根市立病院 http://www.municipal-hp.hikone.shiga.jp/					
全学年	病院看護部紹介、施設見学 新人教育紹介	随時（平日）	随時	看護部 0749-22-6050	
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院 http://www.kachokai.or.jp					
全学年	病院見学	随時	随時	事務部 事務次長 池見・山本 077-545-9191	
医療法人良善会 ひかり病院 http://hikaribyoin.com/					
全学年	病院見学、訪問看護ステーションでの実習体験も可	随時	随時	事務局人事課 077-522-5411	
滋賀県立成人病センター http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seijin/					
大学4回生、 専門学校3年生	インターンシップ 病院見学	平成29年7月21日(金)～ 平成29年8月25日(金)	平成29年5月～ 8月21日まで	看護部 島口 佳代子 077-582-5031 nb01103@pref.shiga.lg.jp	
医療法人 友仁会 友仁山崎病院 http://www.yujin-yamazaki.co.jp/					
①全学年 ②3・4年生	①病院見学・新人教育説明(全学年) ②インターンシップ(3・4年生)	①は平日随時開催、土日は要相談 ②は7～8月末の期間で開催予定	随時	看護部 0749-23-1887 kang@yujin-yamazaki.co.jp	
滋賀県立精神医療センター http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seishin/					
全学年、2～4年 生、3～4年生	病院見学、就職説明会、 インターンシップ	随時、6月頃、7～9月末	随時、前日まで、 随時	看護部副部長 大塚 077-567-5001	
浅井東診療所 http://www.hcfm.jp/accsess_soro/siga.htm					
1～4年	地域の診療所で求められる家庭 医と看護師の様々な仕事を体験	半日～長期も可です	随時可(ベストは 2～3ヶ月前より)	0749-76-8111	
社会医療法人誠光会 草津総合病院 http://www.kusatsu-gh.or.jp/ghk/					
全学年対象	病院説明会、見学会、 インターンシップ	病院説明・見学: 4/29(土)、5/20 (土)、6/24(土)、7/29(土)、8/5(土)、 9/2(土)、10/14(土)、11/11(土) インターンシップ: 随時	随時	看護管理室直通 077-516-2489	
独立行政法人国立病院機構 紫香楽病院 http://nho-shigaraki.jp/					
全学年	病院見学(看護部紹介、病棟見学) インターンシップ(希望病棟の看護 体験)	随時（平日） ※土、日、祝日については希望 に応じて相談させていただきます。	平日9時から 17時まで	庶務係長 中野 副看護部長 森下 0748-83-0101 y-nakano@subsigaraki1.hosp.go.jp k-morishita@subsigaraki1.hosp.go.jp	
長浜赤十字病院 https://www.nagahama.jrc.or.jp/					
3～4学年	①病院説明会 ②インターンシップ	①平成29年7月8日(土)、平成 29年7月22日(土) ②平成29年 7月3日(月)～平成29年9月29 日(金)、他随時（応相談）	随時	看護部 0749-63-2111 nurse@nagahama.jrc.or.jp	
独立行政法人 国立病院機構 東近江総合医療センター http://www.shiga-hosp.jp					
全学年	病院見学 インターンシップ	随時（平日）	随時	副看護部長、給与係長 0748-22-3030 402sy01@hosp.go.jp	
東近江市湖東診療所 http://www.city.higashiomi.shiga.jp					
全学年	外来見学、訪問診療への同行	随時	随時	所長 杉山祐介 0749-45-0001	
甲賀市立信楽中央病院 http://www.city.koka.lg.jp/sch/					
全学年	診療見学・出張診療・訪問診療	随時（6月～11月）	随時	中島 恭二 0748-82-0249	
医療法人 幸生会 琵琶湖中央病院 http://www.biwako-chuo-byoin.jp/					
全学年	病院見学・看護部紹介	随時	随時	総務課 077-526-2131(代) webmaster@kou-sei-kai.or.jp	

病院名・機関名					
対象者 学年等	実施内容	日 程 開催期間	申込時期	連絡先	
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 http://www.vories.or.jp/					
全学年	病院見学（看護部紹介）	随時	随時	看護部長 岡田 幸子 0748-32-5211	
医療法人明和会 琵琶湖病院 www.biwako.or.jp					
全学年	病院見学、看護部紹介、訪問看護見学	随時（応相談）	随時	看護部長 寺井 元	
医療法人社団昂会 湖東記念病院 http://www.koto-hp.jp/					
全学年	病院見学（看護部紹介、施設見学）	随時	随時	看護部 0749-45-5000(代)	
地方独立行政法人 市立大津市民病院 https://och.or.jp/					
全学年	病院見学（看護局紹介、希望部署見学）、インターンシップ	随時（応相談）	随時	看護局 教育担当 077-522-4607（内線6140）	
近江八幡市立総合医療センター http://www.kenkou1.com/					
2018年4月に助産師・看護師として就職を希望する者	病院見学	随時（応相談、ホームページにて案内）	随時	総務課 曲田 0748-33-3151(代)	
市立長浜病院 http://www.nagahama-hp.jp/					
全学年	インターンシップ、病棟見学実習、介護技術見学、先輩看護師との座談会	平成29年7月24日(月)～8月25日(金) ※上記以外の日程にも対応		看護科長室 0749-68-2300（内線2222）	
滋賀県立小児保健医療センター http://www.pref.shiga.lg.jp/mccs/					
大学生3・4年生、専門学校生2・3年生	病院見学・説明会 インターンシップ	随時（ホームページで案内） 応相談	随時（ホームページで案内）	看護部 077-582-6200(代) div-nur@mccs.med.shiga-pref.jp	
守山市民病院 http://www.moriyama-hp.jp/					
全学年	病院見学（看護部紹介、施設見学）	随時（平日、勤務時間中）	随時	総務課 077-582-5151(代)	
医療法人藤樹会 滋賀里病院 http://www.shigasato.or.jp/					
全て	病棟、他関連箇所	希望に応ず	随時	077-522-5426	
医療法人恭昭会 彦根中央病院 http://www.hikone.or.jp/					
全学年	病院見学、看護局紹介、卒後教育等々	随時	随時	事務長 奥 晃 0749-23-1211	
長浜市立湖北病院 http://www.ikbk.jp/					
全学年	病院見学（看護局紹介、施設見学等）	随時（通年）	随時	管理課 0749-82-6143（直通）	
びわこ学園医療福祉センター野洲 http://www.biwakogakuen.or.jp/					
全学年	障害児者医療の実習・見学（病棟・外来・地域支援など）	随時（1日～応相談）	随時	看護部長 村井真理子 077-587-1144	
一般財団法人近江愛隣園 今津病院 http://www.oumiainnen.org/					
全学年	病院見学（看護部紹介、施設見学）	随時	随時	総務課 仁賀 0740-22-2238	
独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院 http://shiga.jcho.go.jp/					
全学年	病院見学会 ・看護部紹介・教育体制紹介	・施設見学、紹介 ・ホームページで案内 ・応相談	随時	看護部 077-537-3101(代) shigab3361@hyper.ocn.ne.jp	
医療生協 こびらい生協診療所 http://www.shiga-mcoop.jp/kobirai/					
全学年	外来見学、在宅医療（往診、訪問看護への同行など）等	随時（応相談）	随時	事務担当 福塚 077-553-9696(代) kobirai@shigamin.jp	
医療法人滋賀勤労者保健会 膳所診療所					
全学年	外来看護、在宅訪問看護同行など	随時（平日）	随時	看護師長 石田 077-524-8114(代) zeze@shigamin.jp	
医療法人滋賀勤労者保健会 坂本民主診療所					
全学年	外来見学、在宅医療（往診・訪問看護・ケアマネ、ヘルパー同行など）、各種検査見学 など	随時（応相談）	随時	事務担当 小西 077-579-7121(代) sakamoto@shigamin.jp	
医療法人滋賀勤労者保健会 訪問看護ステーション 陽だまり					
全学年	訪問看護見学ほか	随時（応相談）	随時	所長 宮田 077-524-8256(代) ms-shiga@shigamin.jp	
医療生協 訪問看護ステーション なないろ					
全学年	訪問看護見学	随時（応相談）	随時	所長 横江 077-554-2390(代) ms-shiga@shigamin.jp	
医療法人滋賀勤労者保健会 訪問看護ステーション コスモス					
全学年	訪問看護見学ほか	随時（応相談）	随時	所長 松田 077-579-4022(代) ms-shiga@shigamin.jp	
医療法人社団仁生会 甲南病院 http://www.kohnan-shiga.or.jp/					
全学年	病院見学（施設見学） 看護部紹介、新人教育紹介	随時	随時	人事課 0748-86-5534 personnel@kohnan-shiga.or.jp	
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院 http://www.kousei-rh-hp.or.jp/					
全学年	病院見学	随時 応相談	随時	総務課 飯田 0748-72-2881 info@kousei-rh-hp.or.jp	
済生会滋賀県病院 http://www.saiseikai-shiga.jp/					
全学年	1. 病院見学、募集要項説明 2. インターンシップ（希望の部署での看護体験）先輩看護師との昼食会 ※開催日時については、病院ホームページに随時掲載します	1. 随時 2. 3月・6月		看護部 事務 山中 077-552-1221 kango@saiseikai-shiga.jp	
公立甲賀病院 http://www.kohka-hp.or.jp/					
全学年	見学（院内案内・病院説明（2時間程度））	随時（土・日・祝を除く）	随時対応	人事課 譽田 0748-62-0234 honda.m@kohka-hp.or.jp	

滋賀医科大学医学科卒業生の卒後動向

2017年3月に卒業した医学生は進路をどのように決めたのか

滋賀医療人育成協力機構理事
滋賀医科大学里親学生支援室長
滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門 准教授

埤田 和史

1. はじめに

滋賀医大を今春卒業した医学生の卒後の動向を調査しました。卒後の動向調査を始めたのは、里親学生支援事業の1期生が卒業した2012年でしたから、今年で5年目になります。滋賀医大では、NPO法人滋賀県医療人育成協力機構と協力して、学生に滋賀県の魅力を伝え、また、滋賀県民が直面している医療の課題を伝え、将来、滋賀県の医療に貢献してくれる医師や看護師を養成することに努めています。卒業後どの地域で医療人として活動するかは学生の自由な選択に委ねられていますから、大学病院や研修病院では、医学生にとって魅力のある研修プログラムを準備し、また、学びやすい職場環境の整備に努めています。学生も、卒業後の研修先を選ぶために、5年生になると研修病院を巡り研修プログラムの説明を受けたり病院の雰囲気確かめたりし始め、卒後の進路を選択します。2016年の卒業生たちがどのような選択をしたのか、調査結果から見た卒業生の動向を紹介します。

2. 結果の概要（表参照）

2-1) 研修先は

91人の卒業生が調査に応じてくれました。卒業生の47人が（52%）が滋賀県内を研修先として選び、県外を研修先を選んだ卒業生は44人（48%）でした。2012年度の調査開始以来、初めて、回答した卒業生の過半数が県内を研修先を選んでいました。性別にみると、男女とも2012年以降県内選択者が徐々に増え、2016年度初めて男性の県内選択者が県外選択者数を超えました。研修施設についてみると、大学病院を選んだ人が49人、そのうち滋賀医大を選んだ人が36人、県外の大学病院を選んだ人は13人でした。大学病院以外の研修病院（以後、一般研修病院）を選んだ卒業生は42人で、その内訳は県内が11人、県外が31人でした。

生は42人で、その内訳は県内が11人、県外が31人でした。

2-2) 卒後の研修施設を選択する時に、重視した事柄

卒後の研修施設を選択する時に重視した事柄の指摘率を、選択した施設やその所在地別に表に示しました。2012年度以来、卒業生が最も重視していたのは、大学病院や一般研修病院にかかわらず、「研修プログラム」でした。県内施設を選択した学生は「指導者」や「スタッフ等の雰囲気」の指摘率が高く、また、「スタッフ等の雰囲気」は大学病院選択者より一般研修病院選択者で重視されていました。今回の調査では、2018年度から新たに始まる予定の、「新専門医制度」が進路選択に影響しているか否かを調べました。滋賀医大選択者の31%、県外大学病院選択者の23%が、既に「新専門医制度」を重視していました。大学病院が要となって実施される「新専門医制度」が、卒業生の進路選択に良い影響をもたらすことを期待するところです。

2-3) 後期研修の動向は

卒後2年間の初期研修後に後期研修が始まります。調査時点で、後期研修を滋賀県内で行うことを考えている人は、滋賀医大を選んだ人の83%、県内の一般研修病院を選んだ人の64%でした。ただし、滋賀医大を研修施設として選んだ卒業生の42%は後期研修施設が未定と回答していました。今後の動向が気になるところです。

3. まとめ

今春の滋賀医科大学医学科の卒業生は、昨年以上に、滋賀県内に留まる人が増えていました。まだ内容が確定していない「新専門医制度」が既に卒後の進路選択に影響を及ぼしているようでした。研修医にとって魅力のある「研修プログラム」を整備し、全国から医師が滋賀県に集まるようになることを夢見ています。

（表）2017年3月医学科卒業生の動向

卒後の初期研修施設		大学病院										一般研修病院									
		県内					県外					県内					県外				
		2012	2013	2014	2015	2016	2012	2013	2014	2015	2016	2012	2013	2014	2015	2016	2012	2013	2014	2015	2016
卒業年度 人数		24	28	27	36	36	17	7	12	15	13	9	12	8	19	11	50	39	37	42	31
性別	男	67%	50%	59%	67%	69%	41%	57%	42%	40%	38%	78%	67%	88%	74%	64%	56%	56%	65%	71%	61%
	女	33%	50%	41%	33%	31%	59%	43%	58%	60%	62%	22%	33%	13%	26%	36%	44%	44%	35%	29%	39%
卒後の研修施設 を選択するに あたって 重要視した事項	研修プログラム	67%	57%	59%	78%	58%	71%	29%	58%	73%	85%	67%	67%	50%	74%	73%	86%	85%	68%	57%	84%
	研修施設の所在地	54%	32%	56%	50%	33%	65%	71%	67%	60%	69%	33%	58%	75%	42%	36%	66%	64%	59%	45%	58%
	賃金・休日等条件	13%	7%	22%	22%	11%	24%	14%	17%	0%	15%	44%	25%	13%	42%	73%	30%	28%	27%	36%	29%
	指導者	50%	50%	30%	36%	31%	18%	0%	17%	27%	8%	22%	58%	25%	32%	27%	24%	36%	27%	38%	16%
	スタッフ等の雰囲気	46%	50%	44%	28%	33%	35%	29%	25%	33%	23%	44%	58%	50%	68%	73%	64%	82%	54%	62%	65%
	施設の名声	4%	7%	0%	3%	3%	18%	0%	8%	7%	0%	0%	0%	13%	0%	0%	0%	10%	8%	7%	13%
	保育所等女性支援制度	4%	7%	7%	3%	0%	0%	0%	8%	20%	8%	0%	0%	0%	5%	0%	0%	0%	3%	2%	0%
	研究環境	8%	11%	4%	3%	8%	12%	0%	25%	7%	23%	0%	0%	0%	0%	18%	6%	5%	11%	2%	13%
	家庭の事情	0%	11%	0%	3%	11%	0%	29%	17%	27%	15%	11%	0%	13%	0%	0%	6%	15%	3%	10%	0%
	新専門医制度	—	—	—	—	31%	—	—	—	—	23%	—	—	—	—	9%	—	—	—	—	13%

開催報告

長浜いきいき健康フェスティバル 2017

大竹 要生 先生より

医療系の職種を目指す皆さんやコメディカル
の皆さんとともに、健康相談会当日の前日に、長浜の町家スペースをお
借りしての準備ワークショップ（以下、WS）に参加しました。実は健
康相談会という、日常の外来診療の延長のようにイメージしていたの
ですが、なるほど準備WSに参加すると、そこには普段の外来診療にも
通じるけれども、またそれとも異なる言わば何か濃縮した世界が広がっ
ていました。

私はいま、家庭医療専門医を目指して専門研修を行っている身です。
家庭医を目指そうとした原点は「相談してもらえ存在になりたい」と
いうことでした。

このWSでは、その「相談」とは何なのか、なぜ「相談」するのかと
いう根本を皆さんと考え合う濃密な時間でした。

学生さんなど参加者の皆さんとは、様々なエッセンスがこのWSの時
間では出し合われました。この相談は「聴いてもらいたい相談」なのか
「背中を押してもらいたい相談」なのか、はたまた「妙案を期待した相
談」なのか、「耳を傾け聴ききる」ということ、「問いかけて浮き立たせ
る」ということ……。日々の臨床に生きてくることはもちろん、妻との
何気ない会話に活かせるヒントやそこに潜む危険な罠に至るまで……。

医師を目指した当初に何気なく考えていた「相談を受けること」から、家庭医の専門研修も経て「相
談の場を用意できるということ」に広がったような、そんなことを考えさせてもらいました。いい時
間を過ごせました。



辻本 健児 先生より

今年で4回目を迎えた健康相談会です。私は指導医として3回目の参加にな
りますが、相談に来られた方々が喜んで帰って行かれるのもさることながら、学生を中心とした相談
員たちが、貴重な経験と学びを得て、変貌を遂げていく姿が何より印象的です。今年の相談員は8名。
指導医は、浅井東診療所の松井善典先生、宮地純一郎先生、中川晃輔先生、弓削メディカル・クリニッ
クの大竹要生先生、私、湖北病院・辻本の5名でした。相談内容は、「頑張っているのに血糖値が下
らない」「薬をやめられないか?」「サプリメントは害がないか?」など、日頃疑問に思っているがな
かなか外来で言い出せないことや、検査結果を持参しての医療相談など多岐に渡りました。終了後、
相談員各自の振り返りを全員の前で順に発表してもらいました。代表的な感想は、単純な質問の裏に
本質的な相談内容が隠れていて驚いた、医療者と患者さんの思いのギャップを痛感し、相談してもら
える医療者になりたいと思った、他職種の質問の仕方に学んで引き出しを増やせた、などです。

浅井東診療所／関西家庭医療学センターや、弓削メディカル・クリニックでは日常見られる光景で
すが、最後に指導医から1人1人にフィードバックがあり、深まっていく学びを皆で共有しました。
相談員たちが医療者として成長した後に、こんな日もあったなと思い出してもらえたら幸いです。

参加学生の声

長浜健康フェスの相談会に興味を引かれたのは、医学生として相談にの
る、という点でした。医学生の相手は書籍ですが、卒業して医師となれば
人を相手にすることの重要性についてよく耳にします。医師と異なり、医学生という肩書きは必
ずしも社会的信頼を得ていません。そのような立場で、どのような相談をされ、どのようにその
相談に応えることが出来るのか、とても気になりました。実際の相談では松井先生と宮地先生の
指導のもと、目標、振り返り、ディスカッションの3本柱を巡りめぐって幾つもの経験的発見
に至りました。そして、参加されていた他の先生方や他職種のかた、また他大学の医学生さんと
も意見交換ができ、とても楽しく有意義に時間を過ごすことができました。

『家庭医体験学習』のご案内

滋賀県内の各地域で働いている医師の仕事を体験する「家庭医体験学習」を開催しています。

今まで大学病院だけでは、なかなかイメージすることのできなかった「家庭医」という医師像を、少しでも具体化することができれば幸いです。

参加対象者は、地域医療に興味のある医学生で、研修施設において1日以上、体験学習を行います。詳しくは、事務局までお問い合わせください。

参加学生の声(抜粋) 2017.3 弓削メディカルクリニック 3名

地域に根ざした弓削メディカルクリニックで沢山のことを学ばせていただいた。クリニックには、受療科を問わず様々な人が来訪される。現在健康で診断書だけ取りに来た人に対しても、その時点で必要な健康維持・増進のためのアドバイスをしておられた。また、健康な人はなかなかクリニックに来ないので、検診等を貴重な機会として捉え、家族歴や現在の飲酒・喫煙状況を聴取したりして、情報収集をしておられた。地域の人全体をみるため、健康の維持・増進、そして予防的視点が重要なのだと感じた。



<症例カンファレンスにて>

ノーベル賞もらうとか有名になるとか儲かるとか、そんな世界とは全く関係のないところで、最難関入試を突破して医師になるような優秀な人たちが、たった「家に帰りたい」という一患者の希望を叶えるために全力で議論して、自分の壁に悩みながら、一生懸命やっておられる姿に、感銘を受けました。

その症例カンファレンスには、なんかあったかいものが流れていました。

実際は医師だけでなく多種連携で対応にあたっておられるのですが、私たちの参加させてもらったのは医師の症例カンファレンスやレジデントの発表で、医師としての心構えを見習った気がしました。

研修を終えて、期待以上に多くのことを学ぶことができました。まず、外来診療を一部始終見せてもらうことができたので、患者さんとの会話の中で、医師がどの情報を読み取って診断を行っていくかを見ることができました。特に印象に残っているのが、糖尿病患者さんとのやりとりで、体重の急激な上昇を減らすためにインスリンをやめる時期なのか、それとも前回にくらべて若干のHbA1cの上昇があるため、次回までインスリンを継続するべきか、先生自身最後まで悩まれていたようです。最終的に患者さんの意向や、次回にこられる予定日などをすべて考慮して、決断されていたように感じました。患者さんが後に並んでしまうつついつい診断を焦ってしまいそうになりますが、患者さんの状態を軸に熟考して答えをだしていて、患者さんにとってのベストを優先していることが伺えました。一人ひとりの患者さんがないがしろにせず、真摯に向きあう姿こそ、診療に大切な要素であるのだと再認識できました。

開催報告

12月13日開催の「里親・プチ里親」対象FD研修会

研修会では、山田 尚登副学長（教育・広報・渉外等担当）から「迫りくる医学教育改革について」と題して、日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価とそれに基づく滋賀医科大学の対応について講演いただきました。

引き続き和やかな雰囲気の中、出席者の自己紹介などを含め意見交換や懇

談が行われました。

滋賀医科大学地域里親支援事業として、里親（県内で活躍されている医療従事者）・プチ里親（地域の皆様）・里子（この制度の登録学生）が交流し、医療人としての心構え、地域医療の現状などを伝える場として毎年1回開催されているこの活動を、滋賀医療人育成協力機構は毎年応援しています。



開催報告

3月1日開催の 「講義・実習中における学生のスマートフォン等の使用」に関するFD・SD（教職員の機能開発の取り組み）研修会

研修会には、県内看護学校の方々も含め、約40名の教職員の方々にご参加いただき、滋賀医科大学基礎看護学講座（形態・生理）の相見教授から事前に調査した「講義・実習中のスマートフォン等の使用に関する調査」結果を基に、教職員の対応の変化や学生の要望などについての報告の後、同大学医療情報部の永田教授ならびにマルチメディアセンター 重歳助教から、「知っているようで知らない情報化社会の変化 学生たちに何を教える必要があるのか？」と題して講演がありました。



その後のディスカッションでは、それぞれの講義での対応の仕方について意見交換があり、ほとんどの学生が電子機器を所持する状況の中「教育のインフラとして使用し、その中でモラルを育てていくことも必要ではないか」など様々な意見が聞かれました。

この研修会は滋賀医科大学里親学生支援室との共催で行いました。

総会報告

5月28日開催の平成29年度通常総会

正会員の方々にご出席いただき、3つの審議事項を承認いただきました。

（正会員120名のうち94名が出席 うち表決委任者87名）

1. 平成28年度事業報告および決算報告

ご承認いただきました。

2. 平成29年度事業計画および予算計画

ご承認いただきました。

なお、今年からの新たな活動として下記項目も取り組んで参ります。

- 滋賀医科大学臨床教育講座との共催で、県内の病院・診療所の医師を招へいし、地域での総合診療や診療スキルに関する講義や実習を行います。
- 滋賀県医師キャリアサポートセンターと共催で、滋賀医科大学卒業の研修医に「後期研修プログラム」に関するアンケート調査を実施します。
- 本機構の活動に当初から御協力いただいている献体団体しゃくなげ会会員の方々へ感謝の気持ちをこめ、地域医療や健康に関する講演を行います。

3. 定款の一部改正について

ご承認いただきました。

今回、特定非営利活動促進法の一部改正に基づき本機構定款の一部を改正しました。

滋賀医科大学男女共同参画推進室

滋賀医科大学では、男女共同参画推進室を設置し、仕事と家庭を両立するためのさまざまな取り組みを実施することにより、子育て中の女性医師をはじめ教職員のみなさまにとって働きやすい環境づくりに努めています。

平成29年度女性のチャレンジ賞 特別部門賞の受賞について

6月21日、本学男女共同参画推進室が、内閣府の「女性のチャレンジ賞特別部門賞」を受賞し、首相官邸にて加藤勝信内閣府特命担当大臣（男女共同参画）より、本学を代表して尾松万里子学長補佐（男女共同参画担当）に表彰状が授与されました。

内閣府では、様々な分野においてチャレンジすることで輝いている女性個人、女性団体・グループおよびそのようなチャレンジを支援する団体・グループを顕彰するため、女性のチャレンジ賞等の大臣表彰を行っています。

このたび本学男女共同参画推進室が受賞した「女性のチャレンジ賞特別部門賞」は、「女性の職場における活躍促進のための企業の枠を超えた取組」について顕彰されるもので、本学における「女性医師がキャリアと子育て・介護等ライフイベントとを両立させられる環境整備等」の取組が評価されました。



安倍首相を囲んで
記念撮影



学長室での記念撮影

「男女共同参画社会づくりに向けての 全国会議」での取組事例発表

表彰式に先立ち開催された、内閣府主催「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」では、尾松学長補佐が他の2名の受賞者と共に取組事例についての発表を行いました。



取組事例で発表した内容（スライド）は、男女共同参画推進室ホームページに掲載しています。
(<http://danjokd.shiga-med.ac.jp/sites/default/files/activity/20170621.pdf>)



TEL:077-548-3599 FAX:077-548-3653 Email:hqdanjo@belle.shiga-med.ac.jp

滋賀県医師キャリアサポートセンター

(滋賀県地域医療支援センター)

当センターは滋賀県健康医療福祉部医療政策課と滋賀医科大学医学部附属病院に設置し、滋賀医科大学医学部附属病院には専任医師を配置しています。

先輩医師との懇談会

医師としてのキャリアアップや、仕事を続けていく上での色々な悩みなどを相談できる場として開催しています。

●平成28年度（第3回）●

平成28年12月16日(金) 18:00～

講師：桂 大輔 先生 (母子診療科 特任助教)

テーマ：「キャリアパスについて」



・キャリアパスのことだけでなく、医療の中における問題を話すことができ、とても勉強になりました。
・先生のキャリアや想いについてお聞きする機会が少ないので、お話を伺えてとても良い刺激になりました。

●平成28年度（第4回）●

平成29年1月17日(火) 17:30～

講師：尾木 祐子 先生 (リハビリテーション科)

テーマ：「整形外科医として働きはじめて
ー現在、過去、未来ー」



・リハビリテーション医としてのやりがいを感じたのが良かった。
・普段聞かないような整形外科のお話を伺い、大変興味をもちました。
・具体的なお話が聞けて、イメージが膨らみ、とてもいい機会でした。

●平成28年度（第5回）●

平成29年3月1日(水) 17:30～

講師：梅田 朋子 先生

(滋賀医科大学 地域医療教育研究拠点 准教授
独立行政法人 地域医療機能推進機構滋賀病院 乳腺外科 診療部長)

テーマ：「私の履歴書ー女性として自由に生きる
ためにはどうしたらよいのだろうか?ー」



・自分自身だけでなく、他の女性の生き方にも興味をもって、手段や選択肢を学ぶことも大切だと思いました。
・女医として働く現状を知り、自分のライフプランを再考することができました。

●平成29年度（第1回）●

平成29年6月6日(火) 18:00～

講師：高橋 健太郎 先生

(総合周産期母子医療センター特任教授)

テーマ：「西洋医学を補完する東洋医学」



・先生がざっくばらんな感じで和気あいあいと楽しく拝聴させていただきました。
・西洋医学とは違う視点からのお話とても興味深かったです。

●平成29年度（第2回）●

平成29年7月11日(火) 17:00～

講師：梅田 朋子 先生

(滋賀医科大学 地域医療教育研究拠点 准教授
独立行政法人 地域医療機能推進機構滋賀病院 乳腺外科 診療部長)

テーマ：「私の履歴書2ー女性として自由に生きる
ためにはどうしたらよいのだろうか?ー」



・先生のキャリアは、本当にたくさんの経験をされていて、それもポジティブに考えられていてとても尊敬しました。
・女性としての働き方のイメージを膨らますことができ、とても良かったです。
・地域医療や乳がんのことが伺えて、たいへん興味深かったです。

【お問い合わせ先】

滋賀県医師キャリアサポートセンター
事務担当・相談窓口：滋賀医科大学病院管理課

住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL：077-548-3656

E-mail：ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp

(女医相談) joisodan@belle.shiga-med.ac.jp

入会・ご寄附のご案内

皆様からの会費とご寄附金を財源として活動を進めてまいります。出費がかさむ折とは存じますが、「地域医療を担う医学生看護学生の育成支援事業」にご支援いただける方々のご協力をお願いいたします。

会員は

会員の種類		会 費	入会金（初年度のみ）
正 会 員	個 人	年会費 2,000円 + 寄附金 3,000円以上	5,000円
	団 体	年会費 5,000円 + 寄附金 5,000円以上	10,000円
賛助会員		毎年 1,000円以上 できましたら 3,000円以上	

ご寄附は

ご寄附いただく金額は決まっておりませんが、できましたら 3,000円以上をお願いします。

入会・寄附に関するお問い合わせは、機構事務局（077-548-2802）にご連絡ください。

めでる誌上に、貴病院や企業からのメッセージを載せませんか！

ご希望の方は、滋賀医療人育成協力機構にお問い合わせください。

編集後記



日ごとに秋の気配が感じられる季節となりましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。
3月下旬に実施しました春の宿泊研修では彦根市・米原市方面を訪れ、地域医療の現場を訪問し見学させていただくとともに、彦根市の歴史・文化に触れる機会となりました。また、米原市野一色地区にお住まいの方々と学生が交流させていただきました。

今回の「めでる」では訪問した地域にかかわる記事と、滋賀県を「障害のある人たちにやさしい地域」として有名にした「びわこ学園」の紹介にページをあてました。

なお今回、発行が予定より大幅に遅れたことをおわび申し上げます。
これからも医療関係者のみならず、県民の皆さまとの交流を通して、学生さんと地域との絆が深まりますよう活動を続けて参りますのでご支援、ご協力をお願いいたします。



NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでる」vol.12

発 行：平成29年10月1日
編 集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構
所 在 地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
T E L：077-548-2802 FAX：077-548-2803
Email：satooya@belle.shiga-med.ac.jp
U R L：http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/